

尾崎 優衣さん／花牟禮 綾さん 株式会社リライフ（中特グループ）

環境保全につながる仕事にやりがい

産業廃棄物の収集運搬、中間処理、下水道事業、解体事業や、高齢社会に対応した不用品の片づけサービスを展開している中特グループ（山口県周南市）。主要業務以外の業務を定期的に経験させる「ジョブローテーション」を実施することで、担当者が育休や介護で一時的に職務から離れる際でも全体の業務が機能するように工夫するなど、職場を離れる機会が多い女性にとって働きやすい仕組みを導入している。加えて不用品片付けサービスなど、きめ細かさや要求される女性に相性の良い事業の創出にも積極的で多くの女性が戦力になっている。今回紹介するグループ会社リライフの下松リサイクル工場の尾崎優衣さん（入社2年目）と、花牟禮綾さん（同1年目）は、従来は男の職場として見られている産業廃棄物の中間処理に関わっているが、丁寧な仕事ぶりを要所で発揮し女性ならではの視点で毎日の業務をこなしている。

——現在の業務内容と入社動機を教えてください。

尾崎さん「汚泥の分析や水質測定を担当しています。当社は受け入れた汚泥を調整しセメントを混合してセメント製品の原料を製造（処理）しているのですが、昨年ISO9000を取得し中間処理物でありながら製品の品質を保証するようになりました。品質の良さで当社のセメント製品を選んでいただいているので、汚泥の分析は品質を

維持するためには重要です。ただ、顧客によって製品の仕様が変わります。大変ですがやりがいはあります。分析業務のほかにはフードロスなどの環境教育に活躍しているダチョウの飼育に携わっています。大学では農学を専攻し害獣の研究をしていました。もともと環境分野には興味がありましたが、当社に興味を持った決め手はこのダチョウです」

花牟禮さん「搬入された汚泥を混合してセメント製品にする工程を担当しています。受け入れた脱水ケーキの汚泥を洗浄、脱水して塩素と水分を抜く作業などをはじめ、セメント製品化までの一連の工程に係る機械の運転管理をしています。汚泥の処理などの際に重機の操作が必要でしたので入社後に重機オペレーションの資格を取得し、現在は毎日、バックホー、パワーショベルなどを動かしています。女性は現場作業には関われないという固定概念があったのですが、携わらせていただけるとい



趣味はぬいぐるみ作りという尾崎さん



うことで入社させていただ
きました。

セメント原料の生産効率
が収益に影響してきますの
で、現在の生産量に満足せ
ず、品質を保ちながら機械
化できる部分は機械化を
図り効率よく生産量を増や
していきたいです。埋立処分
される汚泥を価値ある製品
に変えるという社会貢献度
の高い仕事です。やりがい
を感じています」

—— どんな時に業務の難
しさを感じますか。

尾崎さん「水分が多いと
粘着してしまう性状の汚泥
もありますし、改良剤を混ぜるとアンモニ
ア等のガスが出てきたりして、危険が懸念
されることもありますから、取り扱い経験
のない汚泥の処理検討を行う際は緊張しま
す。汚泥の性状や状態によって特徴がある
と思いますので、経験を積んで行きたいで
す」

花牟禮さん「オペレーションしている機
械について把握していない部分がまだあり
ます。知識をつけていかなければなりませ
ん。また、脱塩施設は機械の設定を変える
ことでセメントメーカーの要望に合わせて
脱塩していくのですが、設定値によって品
質が決まります。汚泥を過剰に洗浄しては
無駄ですし、難しいですが、効率的に製品
の品質を保つことを模索しています。毎日
バタバタしていますが楽しくチャレンジさ
せてもらっています」



ごみ拾いイベントにも参加しているという花牟禮さん

—— 仕事以外で環境保全に向けて気
になっていることは。

尾崎さん「日常生活の中でも環境に負担
をかけないことを心がけています。例えば
日常使うシャンプーですが、最近は動物実
験をしていないエシカルマーク付きの製品
を積極的に購入するようにしています。そ
れを発端に日々使っているものが環境に優
しいものか否かを考えるようになりました」

花牟禮さん「趣味で釣りをしますが、
釣り糸などは海に流れても環境に負担を
かけない生分解性プラスチック製のもの
を使用したり、購入すると金額の一部が環
境団体に寄付されるものを使用していま
す。また、家庭菜園も趣味なのですが、使
用する肥料はもみ殻や堆肥を使うなど、
従来なら廃棄されてしまうものを使用し
ています」